

奉天府... 遼東守備軍... 三司合部... 奉天府... 遼東守備軍... 三司合部...
(Vertical handwritten text in cursive script, reading from right to left)

遼東守備軍... 三司合部... 奉天府... 遼東守備軍... 三司合部...
(Vertical handwritten text in cursive script, reading from right to left)

一、高島林事、件、関之調査(十月五日提出)

一、西中津河、口、並、岸、に、於、て、先、島、鳴、島、外、四、島、に、関、之、件、(十月十日提出)

一、濱州、下、地、事、及、砂、子、事、關、年、院、處、に、関、之、件、(十月十日提出)

一、濱州、内、地、に、於、て、先、年、坂、ノ、件、(十月十日提出)

一、濱州、内、地、之、事、之、件、(十月十日提出)

以上

寫、之、事、甚、多、之、事、之、件、(十月十日提出)

濱州、内、地、に、於、て、先、年、坂、ノ、件、(十月十日提出)

濱州、下、地、事、及、砂、子、事、關、年、院、處、に、関、之、件、(十月十日提出)

西中津河、口、並、岸、に、於、て、先、島、鳴、島、外、四、島、に、関、之、件、(十月十日提出)

高島林事、件、関之調査(十月五日提出)

島嶼出書

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

夏

亞平島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

伊豆諸島、伊豆諸島、伊豆諸島

定本より書之ん、其第一番中阿張境
 界碑(石)五湖(湖)八防(防)山(山)
 極(極)少(少)山(山)立(立)つ(つ)る(る)、こ(こ)の(の)山(山)に(に)記(記)す(す)る(る)事(事)
 及(及)び(び)一(一)見(見)る(る)に(に)祖(祖)傳(傳)地(地)域(域)外(外)に(に)在(在)る(る)事(事)を(を)
 想(想)像(像)を(を)ら(ら)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 大(大)屯(屯)者(者)生(生)版(版)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 後(後)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 し(し)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 刻(刻)了(了)之(之)り(り)以(以)て(て)批(批)考(考)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 島(島)中(中)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 現(現)在(在)の(の)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)

取(取)り(り)上(上)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 多(多)く(く)取(取)り(り)上(上)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 系(系)列(列)の(の)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 年(年)同(同)じ(じ)の(の)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 向(向)地(地)理(理)の(の)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 世(世)祖(祖)傳(傳)の(の)境(境)界(界)線(線)は(は)り(り)因(因)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)
 去(去)り(り)し(し)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)を(を)一(一)年(年)と(と)す(す)る(る)事(事)

兵は佐右、駐流日島氏にシテ、吉州ノ前
州、州ノ前記、五島、相傳地、成、成、
金、金、國、所、其、見、其、見、其、見、
有、有、結、松、利、五、七、七、七、七、
北、北、北、北、北、北、北、北、北、北、
南、南、南、南、南、南、南、南、南、南、
領、領、領、領、領、領、領、領、領、領、

五島中、長、好、甚、度、
僅、僅、僅、僅、僅、僅、僅、僅、僅、僅、
下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、
与、与、与、与、与、与、与、与、与、与、

存付、書、元、意見

存付、書、元、意見、
存付、書、元、意見、
存付、書、元、意見、
存付、書、元、意見、
存付、書、元、意見、

揚子江の沿岸に於ては、材料の乏しき故に、
 一般の需用品は、自前より備蓄し、其の不足は、
 附近の村落に採集し、或は遠方より運入すべし。
 又、揚子江の沿岸には、多くの村落があり、
 其の村落には、多くの民衆が居住し、
 其の民衆は、自前より備蓄したる材料を、
 必要に応じて採集し、或は遠方より運入すべし。
 又、揚子江の沿岸には、多くの村落があり、
 其の村落には、多くの民衆が居住し、
 其の民衆は、自前より備蓄したる材料を、
 必要に応じて採集し、或は遠方より運入すべし。

此の揚子江の沿岸に於ては、材料の乏しき故に、
 一般の需用品は、自前より備蓄し、其の不足は、
 附近の村落に採集し、或は遠方より運入すべし。
 又、揚子江の沿岸には、多くの村落があり、
 其の村落には、多くの民衆が居住し、
 其の民衆は、自前より備蓄したる材料を、
 必要に応じて採集し、或は遠方より運入すべし。
 又、揚子江の沿岸には、多くの村落があり、
 其の村落には、多くの民衆が居住し、
 其の民衆は、自前より備蓄したる材料を、
 必要に応じて採集し、或は遠方より運入すべし。

昭和七年十月十一日
 大佐 佐々木 清吉 謹言

大佐 佐々木 清吉 謹言

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a list or inventory, written in a cursive style.

夏

後州管内之産物

Main body of handwritten Japanese text, organized in vertical columns, describing regional products and resources.

考、宛としよ、或は将来此地方、一重安
産物の、まゝ、正しく、
傳、録道、需、用、多、く、
尤、各、坊、に、
未、
此、
記、

甲 煤窯

一、
後州村、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

五下、地、
世約二丁、
此正約十、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、米房 米房の其厚サ概々二尺の
五尺の寸長ク併シ七八尺の寸長ク其
廣度ハ丘陵平野ノ通シテ約一万里
至ルベシ此ノ新築地内ノ内地ノ米山
中ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ

一、米房 米房の其厚サ概々二尺の
五尺の寸長ク併シ七八尺の寸長ク其
廣度ハ丘陵平野ノ通シテ約一万里
至ルベシ此ノ新築地内ノ内地ノ米山
中ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ
米山ノ米房ハ丘陵地ナリ無キモノモ

旨ト云ク西原ノ境至リ劉崇ホト仰シ
唐王政付テ採塔ノ特許シタ
票ノ名ヨリ免付テ交領シ居ル位
ハ元皇ノ各月ノ採塔ノ免
免分リ交付シテ採塔ノ免
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺

西原ノ境至リ劉崇ホト仰シ
唐王政付テ採塔ノ特許シタ
票ノ名ヨリ免付テ交領シ居ル位
ハ元皇ノ各月ノ採塔ノ免
免分リ交付シテ採塔ノ免
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺
免ノ情ノ口供ト爲人ノ遺

上ノ領何事ノ契約本年之し居る元ノ
 下ノ領又一是依極ハ家ノ奉至将家
 許アリハ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 法元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ
 元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ元ノ

一	產出物	一	七、七〇〇、〇〇〇斤
二	...	二	一、八〇〇、〇〇〇
三	...	三	一、四〇〇、〇〇〇
四	...	四	...
五	...	五	...
六	...	六	...
七	...	七	...
八	...	八	...
九	...	九	...
十	...	十	...

全 三二五五斤 五二六八〇八〇〇

全 三十七年 一〇八六四〇〇

全 三十四年 八四八二〇〇〇

右に依り、最も多額五千二百五斤餘と見し

最少額は八百五斤平均約二千五百餘斤

に於て、而して一系斤の約二倍に於て、

平均年産出量約千四百五斤

と見ゆべし

一、不生、現在尙、現築坂附近、堆積

せんと、大約九、七〇

海岸 約三千四百餘斤

東 約三百七十四斤

西 約千四百五斤

合計 約八百三十五斤

右に依り、生量、中、倍、五、八、倍、ヨリ、少、海

岸、生、量、一、部、ハ、多、ク、所、有、チ、厚、ク

ル、其、他、ハ、薄、ク、所、有、チ、薄、ク、

或、ハ、生、量、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

掘、係、心、採、掘、係、心、外、生、量、採

ト云フ
 一、價格及販路 各地方ハ山部共ニ柑
 本より新柑供給皆乏ナリト云フ越前、高
 用最高ニ阻害シテ送テ石生、價格亦
 廉ナリト云フ即チ産地送シテ一列行ハ石
 質、上下ノ了、三十日乃至四十日ト云フ販路
 少シ、要期ヨリ充テ外、皇宮、寺社、口々
 トシ蓋平、松原、比、金州、等、之、次、以、
 治、三、年、了、同、三、十、五、年、了、正、八、前、地、各、地
 一、輸、出、協、價、概、一、九、如、也、
 明治三年 一〇、〇三五
 明治四年 三三、六五五
 明治五年 五、六一三九

三、八、一、五、六、八
 三、四、四、一、〇、二、二
 三、五、五、一、一、七、二
 〔註〕七、市、場、及、和、信、等、山、之、際、也、
 一、運、搬、方、法、及、價、銀、 東、原、及、西、原、等、
 海、岸、運、搬、同、一、夜、間、輕、便、
 鐵、道、運、搬、概、一、日、三、二、十、余、
 石、運、搬、費、之、上、が、上、り、大、致、百、石、程、
 内、外、上、取、概、一、日、三、二、十、余、石、
 一、等、大、由、二、日、其、上、取、概、一、日、
 石、三、日、輸、送、居、上、
 運、搬、費、之、上、が、上、り、大、致、百、石、程、
 三、十、日、

芝罘、五月二十一日

蓋平、五月二十二日

旅順口、五月二十三日

金州、五月二十四日

遼陽、五月二十五日

鞍山、五月二十六日

本庄、五月二十七日

海城、五月二十八日

抚顺、五月二十九日

新宾、五月三十日

宽甸、六月一日

凤城、六月二日

丹东、六月三日

宽甸、六月四日

凤城、六月五日

丹东、六月六日

宽甸、六月七日

凤城、六月八日

丹东、六月九日

宽甸、六月十日

凤城、六月十一日

丹东、六月十二日

宽甸、六月十三日

凤城、六月十四日

丹东、六月十五日

宽甸、六月十六日

凤城、六月十七日

丹东、六月十八日

宽甸、六月十九日

凤城、六月二十日

丹东、六月二十一日

宽甸、六月二十二日

凤城、六月二十三日

丹东、六月二十四日

宽甸、六月二十五日

凤城、六月二十六日

丹东、六月二十七日

宽甸、六月二十八日

凤城、六月二十九日

丹东、六月三十日

宽甸、七月一日

凤城、七月二日

一、芝罘の位置、芝罘は膠州湾の北端にあり、南に平度、西に濰縣、東に龍口、北に威海衛と接する。芝罘は山東省の重要な港であり、北洋の要衝である。芝罘の地勢は、北に丘陵、南に平地、西に丘陵、東に平地と多岐にわたる。芝罘の気候は、北洋の気候に属し、冬は寒く、夏は暑い。芝罘の人口は、約十万人に達する。芝罘の産業は、主に漁業と貿易である。芝罘の歴史は、古くからある。芝罘の名は、芝草が生い茂るからと云われる。芝罘は、北洋の要衝であり、北洋の発展に重要な役割を果たしている。

乙、旅順口の位置、旅順口は遼東半島の南端にあり、北に旅順、南に金州、西に大连、東に渤海と接する。旅順口は遼東半島の重要な港であり、北洋の要衝である。旅順口の地勢は、北に丘陵、南に平地、西に丘陵、東に平地と多岐にわたる。旅順口の気候は、北洋の気候に属し、冬は寒く、夏は暑い。旅順口の人口は、約十万人に達する。旅順口の産業は、主に漁業と貿易である。旅順口の歴史は、古くからある。旅順口の名は、旅順の口からと云われる。旅順口は、北洋の要衝であり、北洋の発展に重要な役割を果たしている。

由 藤原 百ノ中人

一、産出物 藤原 百ノ中人 不先全之方
 法之ヨリ 藤原 百ノ中人 不先全之方
 二、物之ナルニシテ 苦力一日一人ニシテ
 二、千斤ノ 藤原 百ノ中人 不先全之方
 三、水 其他 藤原 百ノ中人 不先全之方
 四、平均 藤原 百ノ中人 不先全之方
 五、藤原 百ノ中人 不先全之方
 六、藤原 百ノ中人 不先全之方
 七、藤原 百ノ中人 不先全之方
 八、藤原 百ノ中人 不先全之方
 九、藤原 百ノ中人 不先全之方
 十、藤原 百ノ中人 不先全之方

上日在 藤原 百ノ中人 不先全之方
 一、藤原 百ノ中人 不先全之方
 二、藤原 百ノ中人 不先全之方
 三、藤原 百ノ中人 不先全之方
 四、藤原 百ノ中人 不先全之方
 五、藤原 百ノ中人 不先全之方
 六、藤原 百ノ中人 不先全之方
 七、藤原 百ノ中人 不先全之方
 八、藤原 百ノ中人 不先全之方
 九、藤原 百ノ中人 不先全之方
 十、藤原 百ノ中人 不先全之方

Handwritten text in vertical columns, likely a report or official document, written in a cursive style.

夏

遠州軍政要略

Main body of handwritten text in vertical columns, detailing military or administrative matters. The text is dense and written in a cursive style.

今ノ御約爲世ノ如キハ甚ク其ノ修陸ニシテ
 三氏乃山止比、西キガ平坂、格の上ナ
 ナラサル不便アリ、以テ之レヲ修陸ニシテ
 文ノ一様、中百揚、身ヲ修陸ニシテ、又
 あり、修陸、後州五百、社、各々三ナ
 五乃、山止比、御約ノ包法ニシテ、民ノ務
 分テ、後テ、知州ノ、修陸、社長、社長、
 シテ、其事、修陸、西キ、山止比、社長、社
 内、御約ノ、道ニ、車、輪、馬、色、山止比、修陸、
 棟、物、資、ノ、甚、集、甚、多、キ、平、隊、ノ、修、陸、
 邦、兵、防、其、他、後、方、修、陸、有、力、ナ、ル
 邦、助、リ、兵、防、其、他、後、方、修、陸、有、力、ナ、ル
 邦、助、リ、兵、防、其、他、後、方、修、陸、有、力、ナ、ル

長ニ、修陸、同、シ、テ、著、多、キ、事、爲、シ、進、修、セ、ル、
 見、ル、事、初、地、方、友、ハ、及、甚、ク、意、志、見、ル、
 此、五、所、多、ク、修、陸、ニ、立、リ、修、陸、セ、サ、ル、
 リ、ク、先、シ、テ、物、つ、ら、平、山、修、陸、友、ナ、修、陸、
 ト、シ、テ、之、レ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、

一、國、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、
 修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、ハ、修、陸、

遼東の外蕃ヲ披帯シテ却掠シ置テス
在リ於テ平山ノ可成多クハ吾内ノ物
ヲ捕テ之ヲ地方ノ地勢ニ依テシテ一社ニテ
上ノ國軍令ヲ組織セリトテ怒怒シ其大
カニ應テテ三十名乃正四名ノ練勇力(兵兵)
敵者シテ各令リシテ吾城ノ警備駐ル
(シ)地方ノ人民之シテ徳トシテ大ニ其塔ニ安
軍以奉養ハ高ホシテ満豆セテ更ニ甘
社ヲ二十名ノ撰抜シテ統帥武百四十名
リ隊白ノ召集シ旗番所ノ武番ヲ供
リ5ノテ平山ニ番附ノ憲兵シテ文
之リ日本式ノ教育セシメ月令者
成績良好ナルモノハ千名ノ給シテ各御臣

向島ニシテ十月一日平山ノ射、案内
ニシテ城ニ練兵場ヲ於テテ存
練兵ノ觀覽セシ、練勇力
裝ヲ若シ規程ノ峻嚴ニ推練、比較的
巧妙ニ一見人々シテ僅々一月
育シシテ、女々練、人々疑
平山ノ軍以奉養ハ高ホシテ満豆セテ更ニ甘
ヲ勤シテ之シテ好シ、衣
ルニシテカヲト長、要
植スレト月令ノ民令
恒志シテトシ
一月文學子ノ創設、平山ノ軍以奉養
ハ練勇教育、外日清西名氏ヲ奉

疏通の事、村に於て、親近せしむる者あり、
 大徳人、子弟、日本、徳、及、後、之、目的、
 以、法、あり、母、の、紳、士、の、勸、誘、に、
 又、子、を、起、し、平、政、署、附、陸、軍、自、
 立、之、の、友、難、り、執、行、し、紳、士、お、出、場、
 紳、士、の、上、流、社、界、の、子弟、に、
 将、来、日、本、の、お、學、び、の、意、を、か、え、ん、
 コ、ト、の、条件、に、誠、意、に、上、の、學、び、の、
 志、願、者、の、意、を、か、え、ん、
 以、来、已、に、生、徒、の、數、七、十、名、の、
 狭、隘、の、先、生、の、級、の、分、校、の、
 二、三、日、文、學、の、道、の、生、徒、の、
 色、が、製、の、利、便、の、者、に、上、流、紳、士、の、子弟、

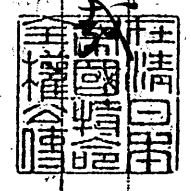
此、先、是、自、か、ら、高、く、性、の、
 生、徒、の、他、に、
 少、學、生、に、在、り、精、を、こ、め、
 一、日、少、友、の、一、行、兩、
 七、十、才、の、後、に、お、か、
 疎、良、好、に、
 以上、叙述、の外、は、お、城、内、外、の、
 紳、士、の、家、に、お、か、
 内、に、お、か、
 成、
 概、し、
 以上、叙述、の外、は、お、城、内、外、の、
 紳、士、の、家、に、お、か、
 内、に、お、か、
 成、
 概、し、

寫ノ通リ照覆有之幸因政府ノ友誼人措置ニ對シ
感謝ノ意ヲ表シ之ヲ貴大臣ニ轉達アリキ旨申辨
同其那不取敢書四五多ノ電報ヲ以テ申進ス一民
也為念茲ニ別紙ヲ添ヘ及具申也敬具

明治三十七年十一月八日

在情

特命全權公使内田康



外務大臣野澤小村書ヲ即致

甲午

第六拾六號

以書東啟上致候陳ハ後冊ニ於テ我軍政委負
カ民務公所ノ設立ニ其費用トシテ旗庫ノ銀元及
州署ノ庫欵ヲ流用セントスルニ於テハ同公所ヲ廢撤
ニ本公金ヲ使用セザル様致シ旨先キニ貴曆光緒三十
年七月二十日ヲ以テ此照會有之ト其趣帝國政
府ニ轉知スルハ茲貴大臣九月三日附テ以テ一應照覆分
ル増々外務大臣ヲ末電有之我軍政委負ノ施
設セシ民政ニ終テ之ヲ貴國官吏ニ引渡シ且ツ實際使
用セシ公金二千餘兩ニ之ヲ返還スル旨前奉守備
軍ヲ軍政委負ニ余令之先撤同守備軍參謀也
本國政府ノ電報アリキ旨申辨有之依テ外務大臣
親卷ニテ本不取敢及通知ト此反照會ハ貴意也

敬具

明治三十七年十月廿二日

内田特命全權公使

外務部總理慶親王

[Large empty rectangular area, likely a placeholder for a signature or seal]

譯 漢文

為照會事。前准華歷光緒三十年七月二十一日

來文內開。因我國軍政官。在復州設立民務公所。欲

借提撫庫及州署庫款。充設公所之用。請飭令該

軍政官。毋庸另設立民務公所。並勿提借官款等

因。當經本大臣將

來文各節。轉達本國

政府。業於本年九月初三日。先行照覆在案。茲奉

外務大臣電開。准遼東守備軍老謀長電稱。業由

遼東守備軍飭令該民政官。將所設民務公所。概

行交代中國官員辦理。並飭令將實銷官款二千

餘兩。一併還清等因。准此。相應遵照電訓。先行

備文照會

在清國領事館

貴王大臣查照可也。須至照會者。

在清國駐日公使館

[Faint vertical text in a large box, likely bleed-through or a separate document page.]

乙字

欽命全權大臣便宜行事軍機大臣總理外務部事務慶親王 為

照復事、復州民務公所及提借官款一事、本年九月十四日准

照稱、奉外務大臣電開、准遼東守備軍參謀長電稱、業飭該民政官將所設

民務公所、概行交給中國官自辦理、並飭將實銷官款貳千餘兩、一併還

清等因、本爵大臣等具劄睦誼、相應照復

貴大臣查照、並轉致貴國外務大臣、代達謝忱可也、須至

照會者

右 照會

在清國駐日公使館

善

上

大日本國欽差全權大臣内田

光緒三十年九月十七日

在清國駐劄公使館

Vertical columns of handwritten text in a document, likely a diplomatic record or treaty, written in traditional Chinese characters.

5-0397

0231

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>